令和４年　　月　　日

令和４年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和４年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和4年4月19日（火）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，理科，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，理科，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　８２人

②　算数　　８３人

③　理科　　８３人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数，理科の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

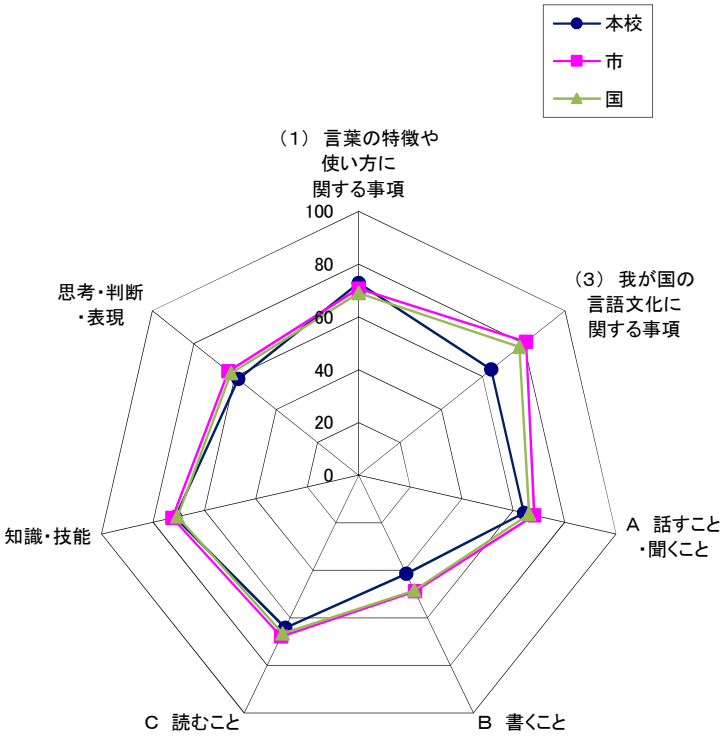
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川西小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	72.8	70.7	69.0
	（2） 情報の扱い方に関する事項			
	（3） 我が国の言語文化に関する事項	64.2	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	64.2	68.2	66.2
	B 書くこと	41.5	48.9	48.5
	C 読むこと	64.2	67.9	66.6
観点	知識・技能	71.4	72.5	70.5
	思考・判断・表現	58.5	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

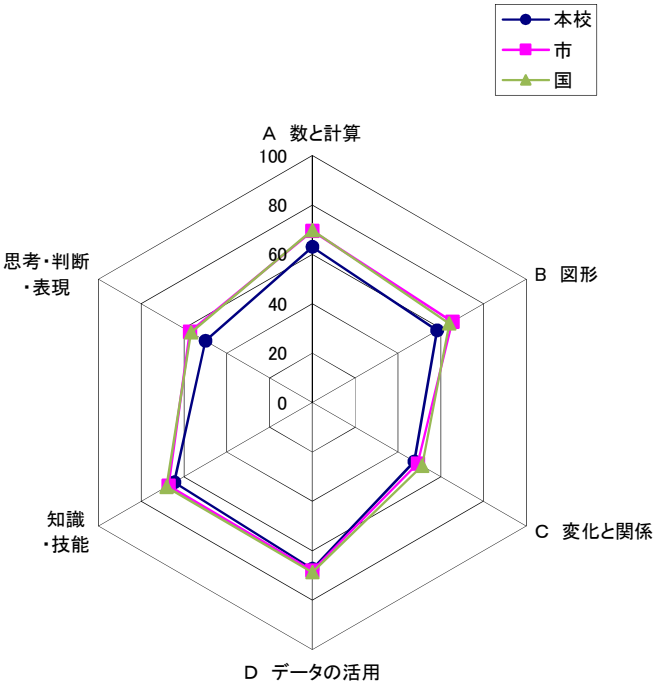
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	○熟語を漢字で書く問題では，正答率が67．9%で全国の平均を上回った。また，話し言葉と書き言葉の違いや言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることを理解する問題では，正答率が全国の平均を上回り，無回答率は0%であった。 ●漢字を書く問題では送り仮名のある漢字の正答率が，全国の平均を2．9ポイント下回っており，無回答率も7．9ポイントほど全国平均から高かった。	・学年に配当されている漢字の定着を図るため，朝の学習や授業の始めの時間を使って漢字のテストや書き取りを行うなどの工夫をしていく。その際に，送り仮名のある漢字を重点的に指導していく。
（3）我が国の言語文化に関する事項	●漢字の仮名の大きさや配列に注意して書く問題では，正答率が全国の平均を下回っている。 ○「文字と文字の間」と誤答した児童の割合は県や国の平均よりも低く，文字と文字の間の適切な距離感については理解が高いと考えられる。	・国語の授業を中心に，様々な言語文化について学ぶ学習を取り入れていく。
A 話すこと・聞くこと	○必要なことを質問し，話の中心を捉える問題では，無回答率が0%であった。 ●必要なことを質問し，話の中心を捉える，話合いから自分の考えをまとめる問題では，正答率が全国の平均を下回っている。	・学級活動，各教科における授業等でペア活動や話し合い活動を積極的に取り入れていき，自分の考えを発表したり，文章に書き表したりする活動を行う。
B 書くこと	○国語科の後半にある作文形式の記述問題であるが，8割の児童が問題に取り組むことができている。 ●文章の構成に着目する問題や文章のよさを見付けて書く問題では，正答率が全国の平均を下回っている。	・記述式の問題に課題が見られることから，文章を要約したり，自分の意見を書き表したりする学習を日常的に行っていき，文章を書く力を高めていく。
C 読むこと	○物語の描写を基に登場人物の相互関係を捉える問題では，正答率が全国の平均を僅かに上回った。 ●物語を読んで内容について問う問題については，正答率が全国の平均を下回っている。特に，表現の効果を問う問題では，正答率が全国の平均と比べて6．4ポイントほど低い。また記述式の問題に関しては無回答率が17%と高い。	・国語の物語文だけでなく，様々な物語文を取り上げ，表現の効果について考えさせる指導を行う。また，人物像や物語の全体像について具体的に想像し，文章に書き表す指導を継続していく。

宇都宮市立横川西小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度 本校	本年度 市	本年度 国
領域	A 数と計算	63.0	69.5	69.8
	B 図形	58.3	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	47.7	49.3	51.3
	D データの活用	67.3	68.0	68.7
観点	知識・技能	64.6	67.3	68.2
	思考・判断・表現	50.0	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

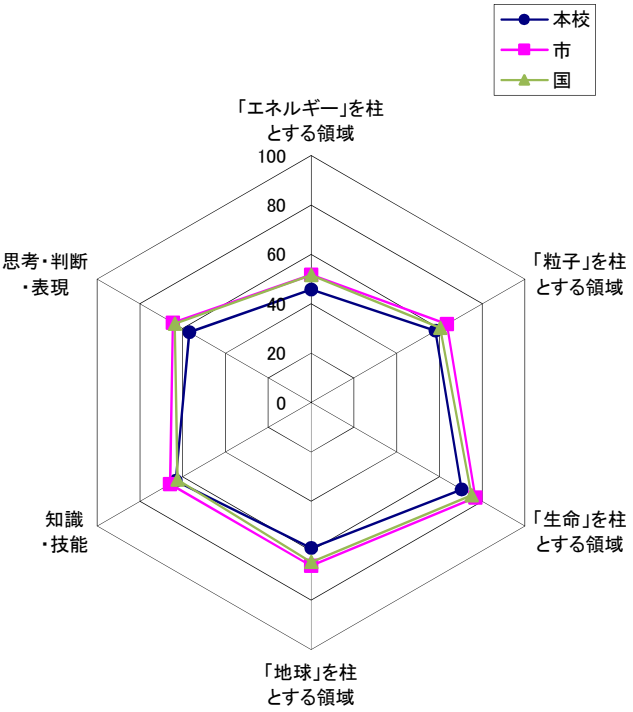
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○整数の乗法の計算については，正答率が96%であり，県の正答率を4ポイント上回っている。 ●最小公倍数を求める問題の正答率が県より7ポイント下回っている。 ●示された場面が除法で求められる理由を記述する問題では，県の正答率を17ポイント下回っている。 ●加法と乗法の混合した問題を記述で答える問題については，正答率が57%であり，県の正答率を10ポイント下回っている。また，無回答率が14%であり，県の無回答率より6ポイント高い。	・問題文を読み取り立式させるだけでなく，問題文のどの部分を根拠にその式になったのかを発表させたり，記述させたりする。 ・最小公倍数の求め方をもう一度復習する。 ・普段から立式，解答するだけでなく，記述して問題を答えるような場面に慣れさせる。
B 図形	○正三角形の意味や性質を考えて考察，記述する問題については，県の正答率と同じくらいできている。 ●図形の領域全般として，市や全国の正答率を下回っている。中でもひし形の意味や性質の理解については，県の正答率を10ポイント下回っている。 ●図形の領域全般の無回答率が13%と高く，県の無回答率を10ポイント上回っている。	・平行四辺形や台形，ひし形などの図形の特徴，性質を表などで整理し，適用問題に慣れさせる。 ・例題などで考えることを通して，自分なりの考えを表現する方法に慣れさせる。
C 変化と関係	○割合の問題については，県の正答率を8ポイント上回っている。 ●百分率で表された割合を分数で表す問題については，県の正答率を10ポイント下回っている。	・百分率と割合，分数の大きさの関連を理解させ，適用問題に慣れさせる。 ・割合を数字だけで捉えさせるのではなく，図や数直線などで視覚的にイメージさせるようにする。
D データの活用	○目的に応じたグラフを選び，必要な情報を読み取る問題では，県の正答率を4ポイント上回っている。 ●整理されたデータを基に，目的に応じて特徴を捉える問題では，県の正答率を2ポイント下回っている。	・グラフの見方，使い方を学ぶだけではなく，それぞれのグラフをどのような場面で使うと効果的なのか，その目的に着目させる。

宇都宮市立横川西小学校第６学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	45.8	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	58.1	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	70.4	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	58.9	66.1	64.6
観点	知識・技能	63.3	65.9	62.5
	思考・判断・表現	56.9	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○3年時に習う光の進み方についての正答率が，県の平均よりも4ポイント上回っている。 ●文章記述問題の無回答率が16%を超えていた。 ●実験の過程を問う問題では，県の平均よりも2ポイント下回っていた。複雑な手順を言葉にするのが難しい。	・実験の手順を記録するなどして，手順を変化させつつ実験するために，児童主体の実験をする必要がある。そのため，実験の際には事件方法を考察し，精製していく活動に取り組んでいく。 ・どんな問題にもあきらめずに取り組む姿勢を，日々の授業で身に着けさせる必要がある。そのため，スモールステップで達成感を味わわせていくことで，少しずつ活動参加の意欲を掻き立てていく。
「粒子」を柱とする領域	○身近な実験器具に関する問題では，無回答者がいなかった。 ●記述式の問題では正答率が25%であり，県の平均よりも15%下回っている。	・実験器具の名前や使い方は身に付いている一方で，それらを用いた実験で何がわかるのか，どのような結果なのかを正確に把握し，考察していくことを日々の授業で取り入れていく。 ・目に見えにくい単元であるであることから，イメージ図を取り入れることや，モデルを用いて授業を進め，児童が想像しやすい授業を展開していく。
「生命」を柱とする領域	○身近な題材であるカブトムシを用いた問題では正答率が全国平均よりも9．1ポイント上回っている。このことから日ごろから昆虫に関心をもって生活をしている児童が多いことがわかる。 ●資料や他者の言葉を聞いて考える問題の正答率が40．1%であり，県の平均よりも25．7ポイント下回っている。	・資料を読み取ることや，その背景を読み取る力をつけることが必要である。そのため，授業でグラフ化したり，予想の根拠を明確にしていく。
「地球」を柱とする領域	○気温の変化を読み取る問題では，県の平均よりも10ポイント上回る結果である。 ●グラフを読み取る問題では，正答率が50%であり，県の平均よりも16ポイント下回る結果となった。	・目に見えない事象を扱う際は，映像資料を見たり，実体験を話させたりする活動を取り入れていく。 ・様々な体験ができるように家庭と連携し，長期休業を生かす。

宇都宮市立横川西小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」に対して児童の肯定的回答は，82．7%で県や全国の割合よりも高く，特に県より6．1ポイント高い。さらに「道徳の授業では，自分の考えを深めたり，学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」児童の肯定的回答は85%である。こうしたことから道徳の授業の中で，様々な考えや意見をお互いに認め合い，話し合いながら共感しあっていると推測される。今後も道徳の授業に限らず，学級活動の場にも機会を広げることによって，さらに児童が一人一人の違いを認識しながらよりよい学校生活に生かせるようにしたい。

○「算数の勉強は好きですか」に対しての児童の肯定的回答は県の割合とほぼ同じ。「算数の授業の内容はよく分かりますか」に対しての児童の肯定的回答は86．2%で県や全国の割合よりも高く，特に全国より5ポイント高い。「算数の勉強は大切だと思いますか」に対しての児童の肯定的回答は96．6%と高い。このことから，算数の学習に対する関心が高く，授業が分かると実感できている児童が多いことが分かった。今後も，習熟度別学習を継続し，分かる授業の展開や個に合ったきめ細やかな指導を心掛けていきたい。また，計算の反復練習などを継続し，基礎基本の充実を図っていきたい。

●「学校で，授業中に自分で調べる場面で，PC・タブレットなどのICT機器を，どの程度使っていますか（インターネット検索など）」に対しての肯定的割合は47．1%と低い。「学校で，自分の考えをまとめ，発表する場面で，PC・タブレットなどのICT機器を，どの程度使っていますか」に対しての肯定的回答は17．2%と低い。このことから，児童がPC・タブレットを活用する機会が少ない，または授業に生かされていないことが分かった。今後は，授業の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用したペアやミニグループでの話合いの場を設けたり，目的に応じて自分の意見を交換したりする学習を取り入れ，学習活動全体で児童がPC・タブレットなどのICT機器を活用して表現できるよう，取り組んできたい。

●「土曜日や日曜日など学校が休みの日に，１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間，インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」に対しての児童の回答では，学校で勧めている60分以上の学習時間に取り組んでいると回答した児童は76．6%である。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的回答は88．1%であった。このことから，家庭学習のヒント集や強化週間などの取り組みにより，自主学習に毎日取り組める児童が増えてきているのが分かった。しかし，約25%の児童は，目安の時間に取り組めていなかったり学習習慣が定着していなかったりすることも分かった。今後は、家庭学習の充実が図れるよう，取り組みを紹介したりヒント集をさらに活用したりして中学校へ向けて自主的に学習できるようにしていきたい。

宇都宮市立横川西小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・家庭学習の習慣化に向けた取組	・「家庭学習のヒント集」を配付し，家庭学習に取り組む力を定着させる手立てや大切さについて指導している。また，年5回の強化週間を実施し，その都度，家庭学習の見直しを行い，習慣化を図っている。	・「学校の授業時間以外の１日当たりの勉強時間」について肯定的に回答した児童は67．1%であった。また，「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の設問に肯定的に回答した児童の割合は76．0%と，県の割合より2．3ポイント下回っている。
・学習内容に応じた学習形態の工夫	・算数の授業での習熟度別学習，朝の学習でのT．Tを実施し，児童一人一人に応じたきめ細やかな指導を計画的に行っている。	・「算数の勉強は好きか」という設問に対する肯定的回答は，78．2%と県の割合より11ポイント高い。「算数の授業の内容はよく分かる」の肯定的回答は89．9%で県や全国の割合よりも高い。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・PC・タブレットなどのICT機器の使用頻度が市や県の平均よりも若干低い。	・ICT機器を活用した授業展開の工夫をする。	・ICT機器の活用法について，具体的な事例を紹介したり演習を取り入れながらの研修を行い，教員がICT機器についての技能を高め，より効果的な指導を行うことができるようにする。